

AllyWare™ v2.8 Release Notes

June 25, 2025

NetAlly のネットワークテストとアナライザは、AllyWare と呼ぶ共通テクノロジープラットフォーム上に構築されています。本リリースノートでは、バージョン2.8に含まれる新機能および改善点について簡単に説明します。

注意: 特定の機能や強化は、指定された製品にのみ適用されます。

目次

バージョン2.8の新機能および改善点	2
iPerf テストの改善	2
Wi-Fi 解析の改善	3
チャンネルごとのカスタムWi-Fi信号調整	6
AirMapperにおける信号強度スレッショルド	7
Wi-Fiパケットキャプチャ – より広いチャンネル幅のサポート	7
Link-Liveアプリの改善	8
スペクトラムグラフのナビゲーション改善	9
ディスカバリアプリの改善	10
自動テスト結果 – ラベルの更新	11
バージョン2.8のバグ修正および改善	12
既知の問題	12
バージョン2.8へのアップグレード方法	13

バージョン2.8の新機能および改善点

iPerf テストの改善

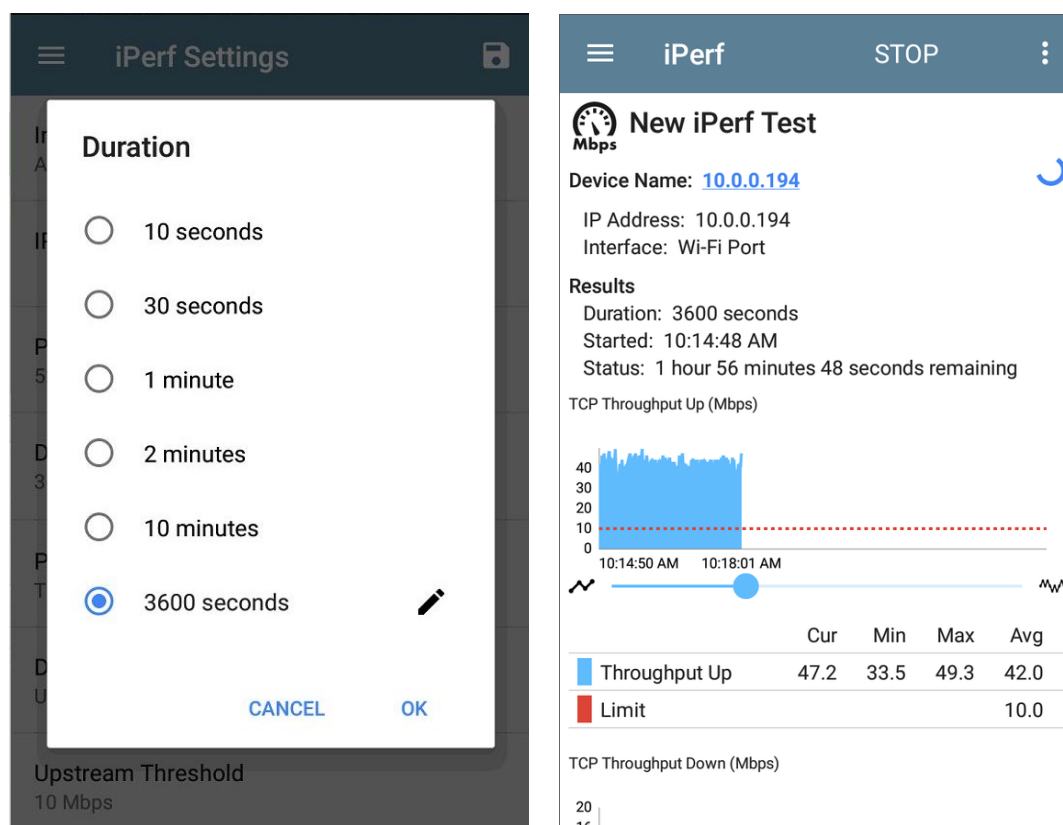
EtherScope nXG, AirCheck G3, CyberScope, CyberScope Air, CyberScope XRF, LinkRunner 10G, LinkRunner AT 4000

iPerfエンジンのアップデート

iPerfテストエンジンをアップデートし、パフォーマンスとスケーラビリティが大幅に向上しました。この更新により、最大スループットが向上し、マルチスレッドストリーム処理が導入され、複数のCPUコアを活用し、ストリームごとにスレッドを割り当てることで効率が向上します。また、重要なバグ修正とセキュリティパッチも含まれており、安定性が改善されています。

iPerfテスト時間の延長

iPerfテストは最大1時間まで実行できるようになりました。実行時間を設定するには、設定画面を開き、「Duration(継続時間)」を選択し、「3600秒」のカスタム値を入力してください。



iPerfテスト実行時のネットワークディスカバリの一時停止

iPerfテストを実行する際、スループット測定の精度を確保するために、テストはアクティブなネットワークディスカバリ処理を一時停止するようになりました。これにより、干渉を防ぎ、より正確なテスト結果が得られます。

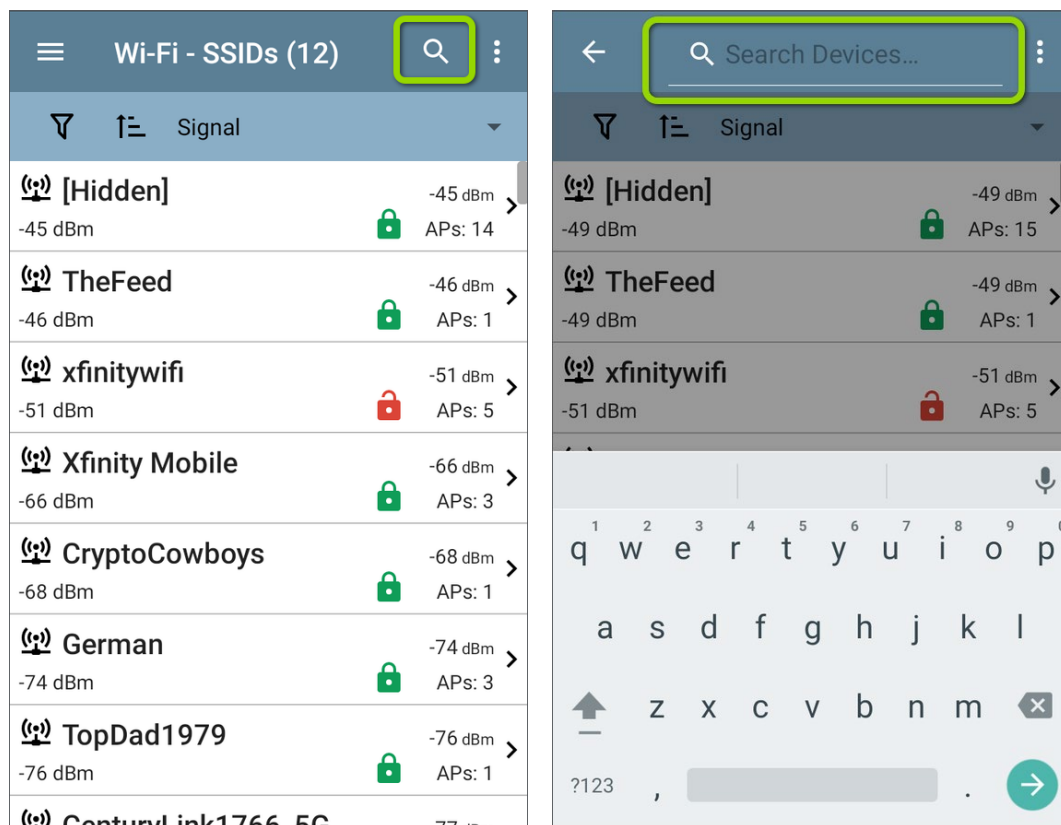
Wi-Fi 解析の改善

EtherScope nXG, AirCheck G3, CyberScope, CyberScope Air

Wi-Fiアプリでの文字列検索機能

Wi-Fiアプリのリスト画面で、数値や文字列による検索が可能になりました。これにより、名前、アドレス、チャンネル番号などを簡単に検索でき、混雑した環境でも目的のデバイスをすばやく見つけられるようになります。

検索機能は、SSID、AP、BSSID、クライアント、チャンネル、Bluetoothの各リスト画面で利用可能です。検索アイコンをタップし、検索したい文字を入力してください。



Wi-Fi 7アクセスポイントのBSSIDレートと性能の表示

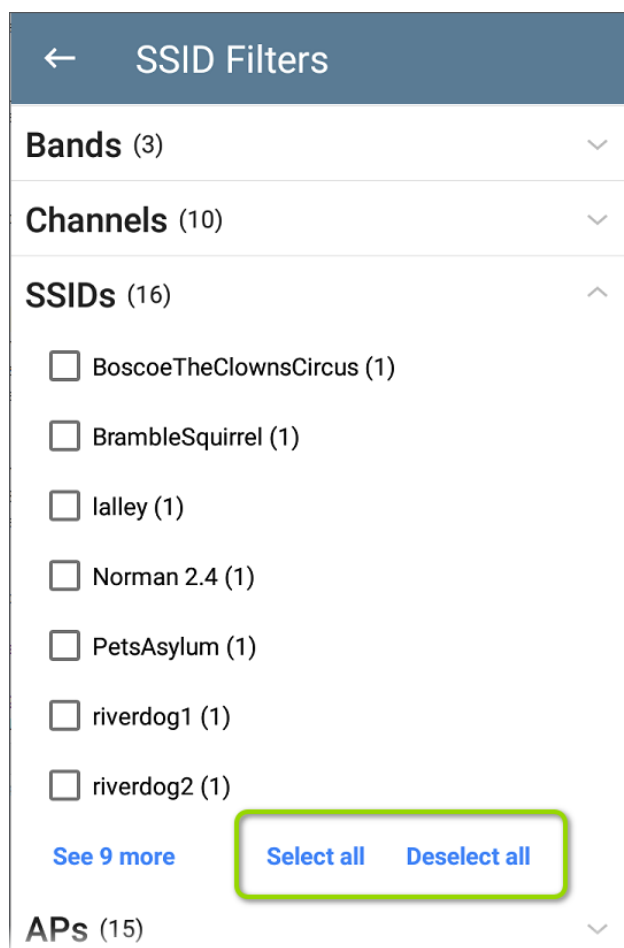
Wi-Fi詳細画面に、検出されたWi-Fi 7(802.11be)BSSIDのレートと性能が表示されるようになりました。これには、対応するデータレートや高度な機能に関する重要な情報が含まれており、Wi-Fi 7の導入状況やクライアントとの互換性を確認するのに役立ちます。

Rates and Capabilities		
802.11be Capabilities		
Max AMPDU: 8388607 bytes		
SU Beamformer: true		
SU Beamformee: true		
Advanced 802.11be Capabilities		
	Tx	Rx
Max Rate	11529.4 Mbps	11529.4 Mbps
Max Streams	4	4
Max MCS	13	13
EPCS Priority Access	true	
EHT OM Control	true	
TXS Mode 1	true	
TXS Mode 2	false	
Restricted TWT	false	
SCS Traffic Description	false	
Max MPDU Length	0	
EHT TRS	false	
TXOP Return in TXS Mode 2	false	
Two BQRs	false	

Rates and Capabilities		
BW Feedback And DL MU-MIMO		
	Tx	Rx
1024-QAM And 4096-QAM < 242-tone RU Support	true	false
Max NSS EHT-MCS 0-9 <= 80 MHz	4	4
Max NSS EHT-MCS 10-11 <= 80 MHz	4	4
Max NSS EHT-MCS 12-13 <= 80 MHz	4	4
Max NSS EHT-MCS 0-9 160 MHz	4	4
Max NSS EHT-MCS 10-11 160 MHz	4	4
Max NSS EHT-MCS 12-13 160 MHz	4	4
Max NSS EHT-MCS 0-9 320 MHz	4	4
Max NSS EHT-MCS 10-11 320 MHz	4	4
Max NSS EHT-MCS 12-13 320 MHz	4	4

全て選択 と 全て選択解除 フィルタの追加

Wi-Fiのフィルタグループに、「全て選択」と「全て選択解除」のオプションが追加されました。これにより、大量のフィルタリストの選択や解除が簡単に行えるようになります。



これらの新しい選択オプションは、現在以下のフィルタグループに含まれています。

Wi-Fi

- SSIDs
- APs
- BSSIDs

ディスカバリ

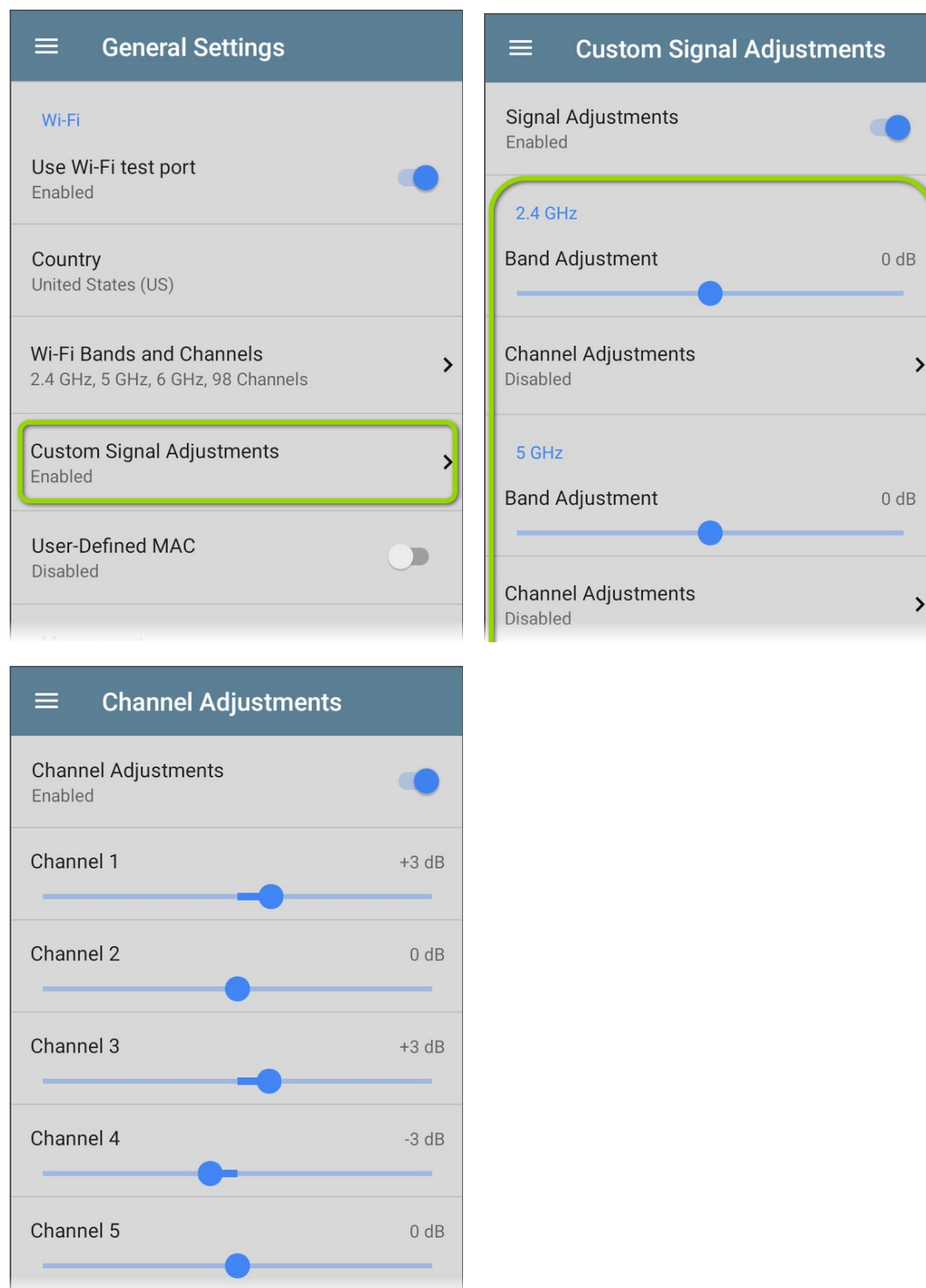
- IPv4 サブネット
- IPv6 サブネット
- VLANs
- NetBIOS ドメイン
- SSIDs

チャンネルごとのカスタムWi-Fi信号調整

EtherScope nXG, AirCheck G3, CyberScope, CyberScope Air

Wi-Fi測定に関する新しい一般設定により、個々のチャンネルやバンドに対してカスタムの信号オフセット(dBm)を設定できるようになりました。

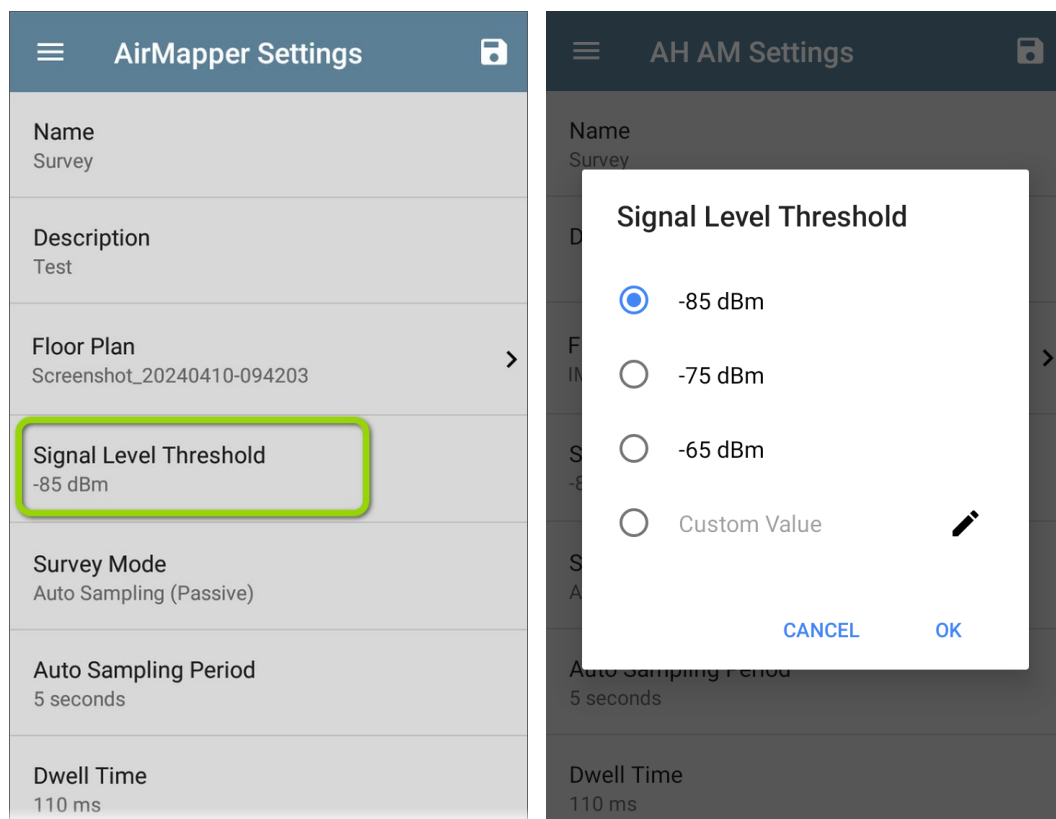
これにより、アンテナの違いや環境要因、ハードウェアのキャリブレーションなど、特定のチャンネルに影響を及ぼす可能性のある要素を考慮して、より正確な制御が可能になります。



AirMapperにおける信号強度スレッシュホルド

EtherScope nXG, AirCheck G3, CyberScope, CyberScope Air

この設定では、Wi-Fiデバイスがヒートマップに表示されるために必要な最小信号レベルを指定できます。これにより、ネットワークパフォーマンスに影響を与えないほど弱い信号を無視できるようになります。AirMapper設定内の該当フィールドをタップすると、新しい値を選択するか、カスタム値を入力できます。デフォルト値は -85 dBm で、非常に弱い信号のデバイスは除外されます。設定可能なカスタムしきい値は -10 dBm ~ -99 dBm の範囲です。



注意: ソフトウェアバージョン2.8以降、ヒートマップでデフォルトで表示されていたデバイスのデータの一部が、新しいデフォルトしきい値 -85 dBm によって除外されるようになりました。

Wi-Fiパケットキャプチャ - より広いチャネル幅のサポート

EtherScope nXG, AirCheck G3, CyberScope, CyberScope Air

キャプチャアプリは、以下のWi-Fiチャネル幅に対応したパケットキャプチャをサポートするようになりました。

- 5GHz帯および6GHz帯: 最大160MHzのチャネル幅
- 2.4GHz帯: 最大40MHzのチャネル幅

これにより、より広いチャネルでの解析が可能となり、さまざまなWi-Fi環境でのパケットの可視性が向上します。

Link-Liveアプリの改善

EtherScope nXG, AirCheck G3, CyberScope, CyberScope Air, CyberScope XRF, LinkRunner 10G, LinkRunner AT 3000 (LANBERT only), LinkRunner AT 4000

LANBERT、パス解析、パフォーマンステスト、およびiPerf結果のLink-Liveへの自動アップロード

LANBERT、パス解析、パフォーマンス、iPerfアプリに新たに追加された設定により、テスト結果を自動的にLink-Liveへ送信できるようになりました。

これにより、測定結果の記録や報告がこれまで以上に簡単かつ効率的になります。

Path Analysis Settings	Generator Settings
Device Name 45.33.49.119	Speed Auto
Interface Wi-Fi Port	Frame Size 64 Bytes
Protocol Connect (TCP)	Duration 1 minute
TCP Port 80 (www-http)	Grading Type Count
Auto-upload results to Link-Live Enabled	Error Threshold 0 (No errors)
	Loss Threshold 0 (No loss)
	Auto-upload results to Link-Live Enabled

スペクトラムグラフのナビゲーション改善

EtherScope nXG, AirCheck G3, CyberScope, CyberScope Air

NXT-2000ポータブルスペクトラムアナライザを使用中、Spectrumアプリのグラフ上でタッチ & スワイプ操作（フリック）が可能になり、表示されている周波数範囲の次のセクションにビューを移動できるようになりました。

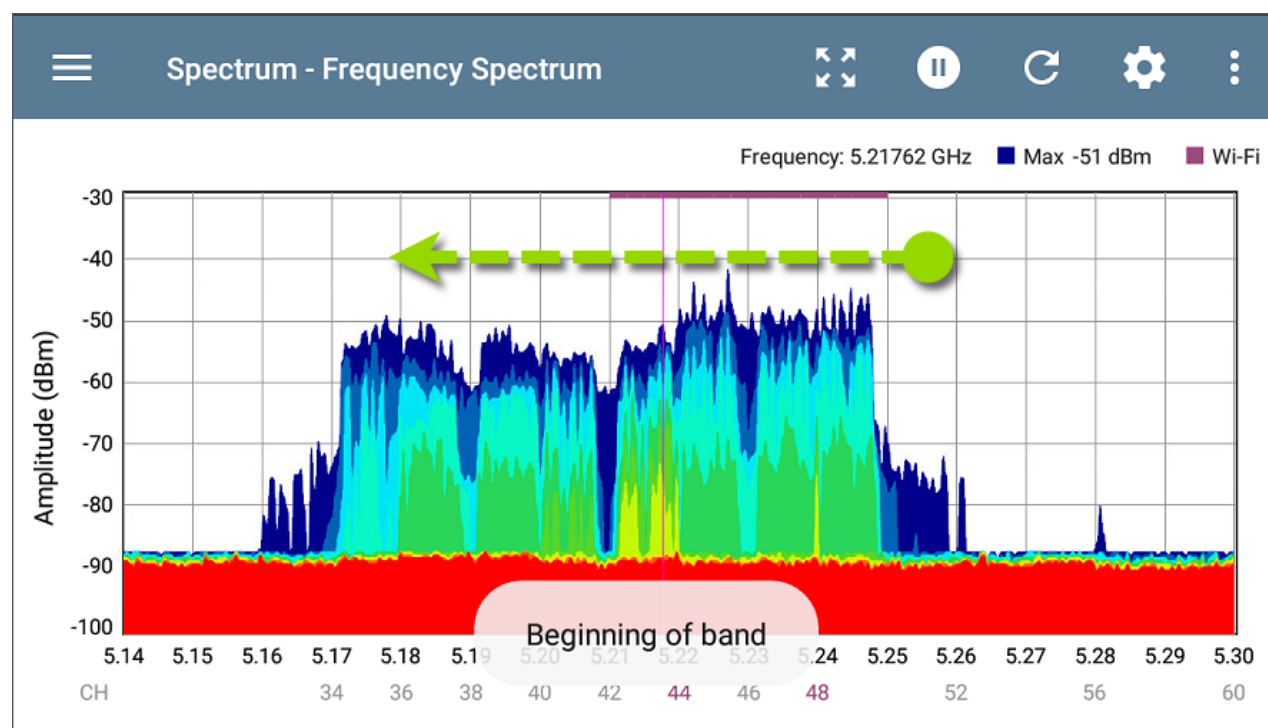
グラフ上を素早くスワイプして指を離すと、次のセクションにグラフが再描画されます。

※この機能を使用するには、バンド全体ではなく、バンドの一部にズームインしている必要があります。1回のフリック動作（前方または後方）で、表示範囲の次の3分の2が描画され、直前に表示されていた周波数範囲の3分の1が引き続き画面に残ります。

また、グラフの下部には、新たに次の通知が表示されるようになりました。

- 「帯域の前方 (Beginning of Band)」
- 「帯域の後方 (End of Band)」
- 「ズームし最大化 (Zoom is at maximum)」

例: 下図のように、グラフが5GHz帯の下部 (5.14~5.30GHz) を表示している場合、画面を左にフリックすることで、より高い周波数帯域の次の3分の2が表示されます。元の右端に表示されていた3分の1の範囲は、今度は左端に再描画されて表示されます。



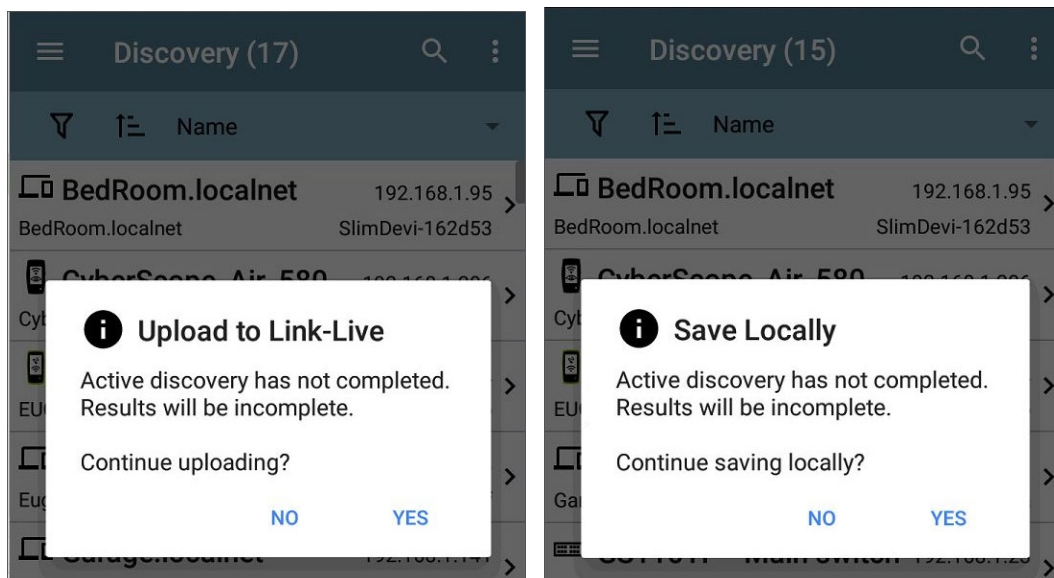
ディスカバリアプリの改善

EtherScope nXG, CyberScope, CyberScope Air, CyberScope XRF, AirCheck G3, LinkRunner 10G, LinkRunner AT 4000

ディスカバリ未完了時の警告表示

ネットワークディスカバリが完了する前に、ディスカバリテストの結果をアップロードまたは保存しようとする、警告メッセージが表示されるようになりました。

これにより、不完全な結果の保存や共有を防止し、より正確なデータ管理が可能になります。



注意: ディスカバリテストが未完了の場合でも、結果を保存するオプションは引き続き提供されますが、一部のデータは解析に利用できない可能性があります。

自動テスト結果 – ラベルの更新

EtherScope nXG, CyberScope, CyberScope XRF, LinkRunner 10G, LinkRunner AT 3000 and 4000

有線リンクテスト結果のラベル更新

自動テストにおける有線リンクの速度結果ラベルが、より分かりやすくなるよう改訂されました。これにより、接続速度の解釈がより正確に行えるようになります。

- 「Configured Speeds(設定Speeds)」は「Tester Configured(テスターの設定)」に変更されました。
- 「Advertised Speeds/Duplex(通知 スピード/デュプレックス)」は「Link Partner Advertised/Duplex(リンク先 通知/デュプレックス)」に変更されました。
- 光ファイバー接続テストにおける「Power Difference(電力差)」のラベルは、業界用語に合わせて「Power Loss(パワー損失)」に変更されました。

これらの変更により、テスト結果の内容がより明確かつ業界標準に沿ったものとなっています。

AutoTest

100M/1G/2.5G
RJ-45 FDx

Speed
Tester Configured:
10M/100M/1G/2.5G/5G/10G
Link Partner Advertised:
100M/1G/2.5G
Actual Speed: 2.5G

Duplex
Link Partner Advertised: FDx
Actual Duplex: FDx

RJ-45 Details
Rx Pair: All

Multi-Gigabit Details

Channel	Delay Skew	SNR	Avg SNR
A	REF	8.9 dB	9 dB
B	0.00 ns	7.9 dB	7.8 dB
C	1.25 ns	8.7 dB	8.9 dB
D	1.25 ns	9 dB	9 dB
Threshold			5 dB

Result Codes
Success

AutoTest

10G
SFP+ FDx

Speed
Tester Configured:
10M/100M/1G/2.5G/5G/10G
Link Partner Advertised:
10G
Actual Speed: 10G

Duplex
Link Partner Advertised: FDx
Actual Duplex: FDx

SFP Details
Wavelength: 850 nm
Temperature: 42 C
Voltage: 3.31 V
Tx Bias Current: 6.01 mA
Tx Power: -2.47 dBm
Rx Power: -7.13 dBm
Reference Power: -6.05 dBm
Power Loss: 1.09 dB

Result Codes
Success

バージョン2.8のバグ修正および改善

- AW-14423: LinkRunner 10Gのビデオガイドリンクを正しいトレーニングプレイリストに更新。
- AW-14384: Spectrumの結果が一時停止中、紫色のWi-Fiアクティビティインジケーターが更新されないよう修正。
- AW-14383: EXG-200のWi-Fi解析で、Wi-Fi 7のBSSID表示を修正。チャンネル幅が誤って20 MHzと表示されていた問題を、「unknown」と正しく表示するよう修正。
- AW-14380: 自動テストのアップロードダイアログで、グラフがテスト結果に保存されることが明確に表示されるように修正。
- AW-14376: デュアルバンドNXT-1000ユニットにおける6GHzグラフの表示不具合を修正。
- AW-14375: LinkRunner AT 4000で、パケットキャプチャがサイズ上限に達する前に停止したように見えるUIの不具合を修正。
- AW-14363: SFP基準電力テストの結果が、非ファイバーテスト中にLink-Liveへ再投稿されないよう修正。
- AW-14360: Spectrumの結果が一時停止中でも、飽和インジケーターが静止状態を保つよう修正。
- AW-14358: ディスカバリアプリで、インターフェースに表示されるデバイス数の不一致を解消。
- AW-14354: 「Save to Last Test Result (最後のテスト結果に保存)」で、グループ自動テスト実行内のすべてのプロファイルに同じファイルが添付されないよう修正。
- AW-14352: Wi-Fiリンクの失敗後、APおよびチャンネルカードにチャンネル0と表示される不具合を修正。
- AW-14322: CyberScopeにおいて、Nmapディスカバリが同時に実行されている場合に繰り返し自動テスト中のDHCP取得が失敗する問題を修正。
- AW-13915: 繰り返し自動テスト実行中に発生する「Strange SO_ERROR from connection」というNmapエラーを修正。
- AW-12961: Protected Management Frames (PMF) が必須の場合に、WPA2-Enterprise接続が失敗する問題を、Wi-Fiプロファイルおよび管理ポートの両方で修正。
- AW-14374: 拡張ログ通知に表示されるユニットアイコンを修正。
- AW-14562: キャプチャダイアログの表記を「Save to Link-Live」から「Upload to Link-Live」に変更し、用語を統一。
- AW-14402: Wi-Fiアプリで、WPA3-Pに設定されたBSSIDが誤ってWPA2-Eと表示されていた不具合を修正。

既知の問題

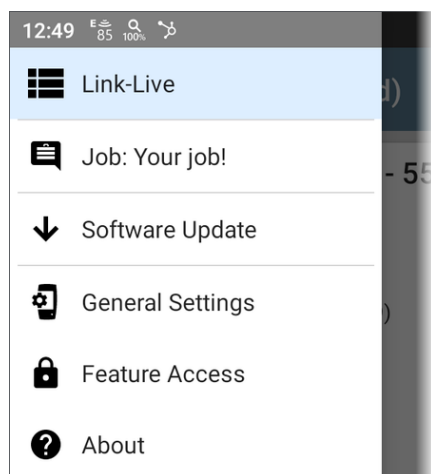
- AW-14024: TRENDnet AC1200 USB Wi-FiアダプタはLinkRunner 10Gで動作しません。

バージョン2.8へのアップグレード

このソフトウェアアップデートは、AllyCareサポート契約の重要な特典です。

Link-Live.comにユニットを登録している場合、Over the Air (OTA) ファームウェア更新手順に従うことを強くお勧めします。

1. ホーム画面からLink-Liveアプリ  を開き、利用可能なソフトウェア・アップデートを確認できます。
2. アプリ内でメニューアイコンをタップするか、右にスワイプして左側のナビゲーションドロワーを開きます。



3. 「ソフトウェア・アップデート (Software Update)」をタップします。ソフトウェア・アップデート画面が開き、利用可能なアップデートのバージョン番号が表示されます。
4. 「ダウンロード + インストール (Download + Install)」をタップしてシステムを更新します。

テストのアップデートが完了すると、自動的に再起動します。

NetAlly製品をご利用いただき、誠にありがとうございます。